

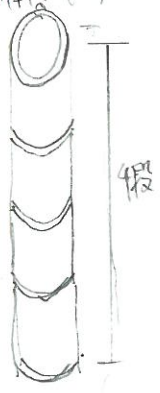
この企画

タイトル ( 竹取・甲之編 )

今日、迫田と角のグループで考案したこの「竹取・甲之編」は、竹取物語で「かぐや姫」が登場する場面をイメージした、ひかりと微粒子が織りなす、独特な雰囲気のあるものがある。甲とは、陰陽五行説で、木性の陽という意味があるため、こ木を用いた。仕組みとしては、竹の中に全方向に好きな色を発色できるようなライトホールを入れておく。全部で4段あるうちの一番上の段は、スライドさせることにより、このライトホールの電源が入り、発光しながら回転を始める。また同時に、内側に取りつけた装置により、水の微粒子がもくもくと発生し、光とぶつかりて反射させることで、より幻想的になるようになっていく。また、竹の側部に開いた穴で模様を描き、その穴からも光がもれ出すことでさらにこ木を助長させる。この模様は、もう少し考えたい。また、一番下段の竹は開閉式となっていて、iphoneを押し込めるようになっていく。このiphoneは、音が落ちることによりライトアップの色や回転速度などを、その状況によって変えられるという優木物である。

- ① 竹の内装。一番上の段があるときは、2段目手前にはスイッチを押し、その間は電源がつかない。一番上の段をスライドさせてから目が見えたら、竹取一編が竹を動かしてかぐや姫が登場するシーンを再現。2段目の切り断りから出てくる微粒子に様々な色の光が当たり反射することで美しさが増す。
- ② 竹の一番上の段は、後部のアルミの棒を軸にスライドさせて回転する。また、この棒は伸縮性があるので後ろに固定できる。また、2段目後部の左側に、水をためる部分がある。ここで、水粒子の水を給水する。一段目後ろに移ると後部が重くなるが、こ木は一番下のスタンドでカバー。
- ③ iphone 押し込み。こ木は、音が落ちてくる水粒子により故障しないように防水になっている。フックでフックをさした光り方を表現できるように曲に合わせて動かせることでもできる。また同時に充電もできるという優木物。

全体像 (4F)



竹取・甲之編

追々、月

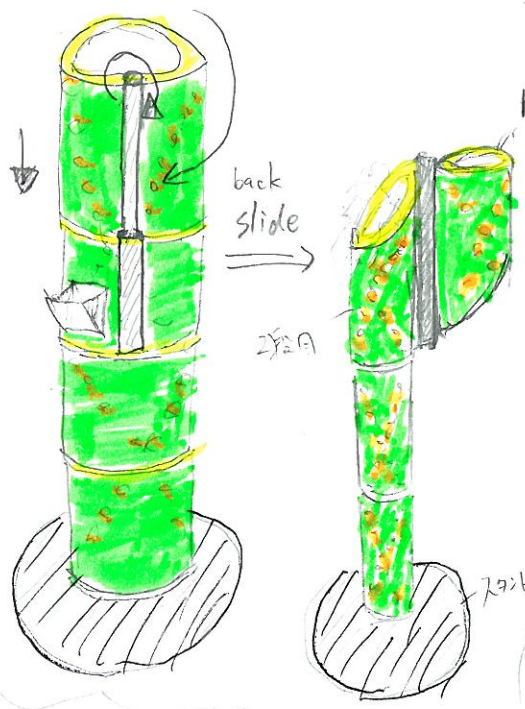
中



①

後

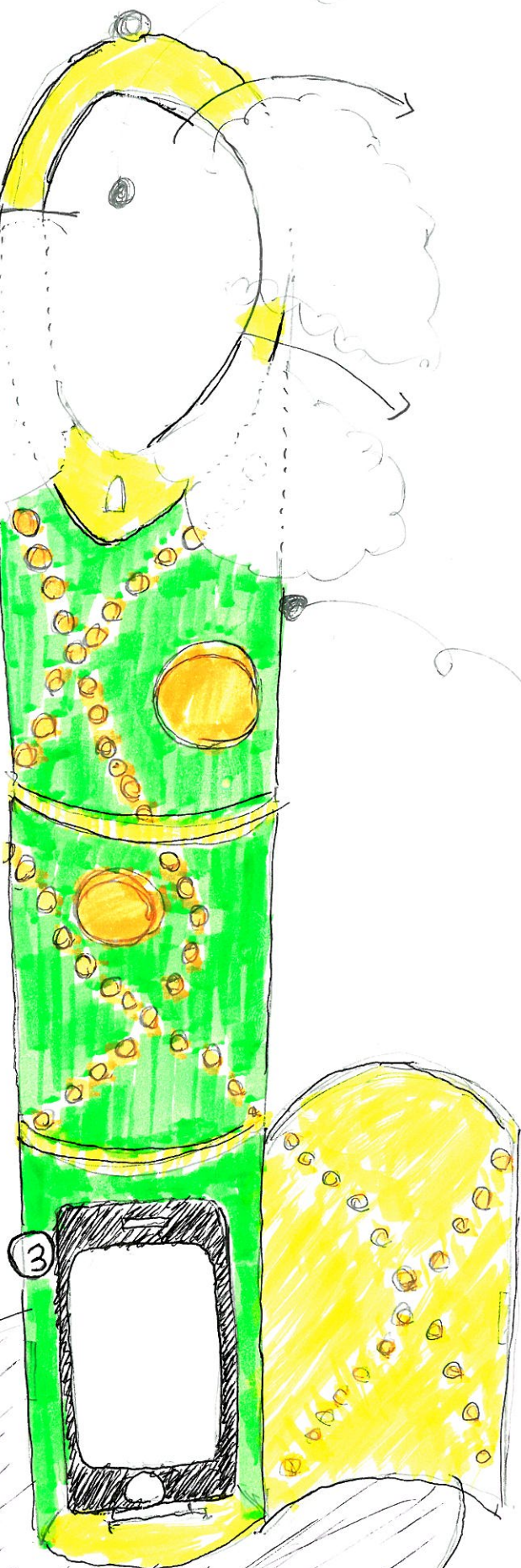
②



1/2A

2/2A

2/2B



③